

アベ政治を終わらせるたたかいを継続!

政治の変革を、私たち主権者の声と運動で!

4日(月)、第190通常国会が開会されました。会期は6月1日までの150日間です。再三の要求にも臨時国会を開かなかった自公が、通常は1月末に開催されていた日程を無視して4日開催したのは、衆参同日選挙を狙った日程と言われています。衆参両院本会議で、安倍首相が外交報告を、麻生財務相が15年度補正予算案に関する財政演説を行い、ともに国会決議を反故にするTPPの早期発効を強調しました。安倍首相は「各国の手続きを速やかに完了させることで一致した」と強調し、麻生氏は補正予算へのTPP国内対策費の計上を正当化しました。農業関係だけでなく、医療や保健、食の安全などの命や暮らしを根底から壊される危険があります。

また、安倍首相は、同日4日に年頭記者会見を行い、参院選では「自公で過半数を確保したい」と述べたうえで、「憲法改正については、しっかりと訴えていく」と述べ、改憲を参議院の争点とする姿勢を示しました。

3800人が「国会開会日総がかり行動」に参加!

一方国会前では、「安倍政権は今すぐ退陣」「野党は共闘」「2000万署名を成功させよう」のコールが沸き起こりました。今年最初の「総がかり行動」は、3800人が結集し、衆院や参院の議員会館前を、四重、五重と取り囲みました。主催する実行委員会の三団体と、日弁連の代表があいさつしました。また、民主党3人、維新1人、共産党16人、社民党1人の国会議員が参加し、各党代表が挨拶をしました。



再び戦争への道 NO! みんなの力で戦争法廃止

12・8 「戦争法廃止」第6回茨城そうがかり行動 600人

寒さに負けず「戦争法廃止」を訴える!

集会に! デモに!

第6回総がかり行動は、12月8日(火)、午後5時半から水戸駅北口で集会が開催されました。9月19日、憲法違反の「戦争法」が安倍政権によって強行可決されてから2ヶ月半が立っています。

12月8日は、75年前の1941年、日本がアメリカの真珠湾を攻撃して、太平洋戦争が開かれた日です。その結果アジアでは、2000万人、日本では310万人の方々がなくなりその多くが民間人でした。戦争の結果日本の全土は焼け野原となりました。二度とこのような戦争を起こしてはならないという決意が、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」をうたった、日本国憲法にこめられています。戦争法廃止の総がかり行動にふさわしい日でした。

集会は、戦争法廃止連絡会代表の田中重博さん、はばたき法律事務所の花山智宏(ちひろ)さん、民医連の木村冬樹さんたちが、情勢やたたかいの展望、決意、思いを表明しました。日が落ちると寒風で震えるような気温になりましたが、400人以上の参加者が発する熱気で撥ね返しました。集会の最後に茨城労連事務局長の丸山さん主導で声高くシュプレヒコールを行い、「戦争法廃止」「立憲主義を守れ」の思いを強めました。

集会終了後、6時30分から宮下銀座入り口に移動してデモに入りました。デモ出発にあたり丸山さんの決意表明がありました。辺りは暗くなりましたが、デモに参加した人たちは、ペンライトなどの明かりを振りながら、「戦争法廃止」「安倍政権退陣」「戦争反対」のシュプレヒコールを挙げて、沿道の人たちに訴えました。デモの参加者は600人でした。

迎春

憲法公布七十年
を、憲法を守り
活かす年に!

二〇一六年 元旦

日本平和委員会

代表理事

有馬理恵

佐藤光雄

高田公子

畑田重夫

事務局次長 岩月康範

岸松江

住吉陽子

内藤功

千坂純

歓迎! 新入会員のみなさんです。
よろしくお祈りします。

- ** *** さん (下妻市)
- ** ** さん (水戸市)
- ** ** さん (水戸市)
- ** ** さん (牛久市)
- ** * さん (牛久市)
- ** *** さん (牛久市)
- ** ** さん (牛久市)
- ** ** さん (牛久市)
- ** ** さん (牛久市)
- ** ** さん (牛久市)

*ともに平和の声をおおきく広めていきましょう!

平和新聞

2016年1月15日 (*曜日)

2098号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 736

発行: 茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

村上典男県会議員（いばらき自民党・笠間）の暴言を見過ごすな！

12月8日（火）、県議会の「防災環境商工委員会」審議の席上、村上典男県会議員は、「国内原発は安全であり心配ない」とか「・・・国内の（原発）事故は想定する必要はなく、・・・」などと発言しました。

福島原発事故で原発安全神話が崩壊し、同時に福島原発周辺は人が住めなくなりました。その福島原発事故原因の究明も現状回復も見通しが立っていません。その上茨城県は福島原発事故で大きな被害を受けています。老朽化した東海第二原発再稼働の危険性に、多くの県民が不安を抱えています。そんな中で県民の生命と安全を守ることを最優先しなくてはならない県会議員の役割を投げ捨てたこの発言は許してはなりません。県議としての資質が問われる暴言です。平和委員会とは他団体と連携して早急に抗議と発言の撤回を申し入れます。

以下は、そのときの議事録の抜粋です。

- 村上典男委員＝「広域避難計画は何があった時避難するのか」
- 関原子力安全対策課長＝「商業用原子炉において事故の発生する危険性が高まった時、または具体的に放射性物質の放出の恐れがあるか放出されたときに住民の生命・身体を守るための避難計画である」
- 村上典男委員＝「国内原発は安全であり心配ない。むしろ心配しているのはチェルノブイリ原発事故に放出され、日本に降り注いだ放射性物質である。福島原発事故との数値の比較をしているか」
- 関原子力安全対策課長＝「手元に資料がないので詳細は答えできないが、チェルノブイリの方が多いと認識している。福島第一事故はセシウムの放出量で比較すると約6分の1、汚

染距離では約10分の1、汚染面積では約6%である。」

- 村上典男委員＝「中国、韓国、ロシアの国外の原発から、県民をどう守るかと言うことの方が現実的である。国内の事故は想定する必要はなく、万が一でいい。国外の原発から、県民をどう守るかという視点が最も大事である。このような認識はあるか。どう県民を守るか考えていただきたい。」
- 関原子力安全対策課長＝「国外に原発事故がどれほどの影響があるかについては把握していない。災害対策基本法に基づき、地元にある原子力発電所の事故を想定し、非難計画をつくるのが地方公共団体の義務であり、進めている。国外の原発事故対応については内閣府に確認しながら研究してまいります。」



新聞意見広告のとりくみ ご苦労様！ 最終集約はもう少し！

理事会で確認された「平和意見広告」賛同者獲得目標口数の提案口数と到達点 1月8日現在

会名	目標	到達	会名	目標	到達	会名	目標	到達	会名	目標	到達
北茨城	40	35	はばたき	20	16	牛久	50	33	結城	50	35
美和・緒川	30	30	内原・友部	80	52	つくば	30	26	さかい	25	3
日立	15	9	笠間	30	23	守谷	30	30	古河	15	28
太田	40	37	鹿行	70	58	つくばみらい	30	38	(五霞)		8
大宮	20	23	潮来市職	30	14	荃崎	20	27	あおぞら	15	6
東海	60	43	池貝	8	6	竜ヶ崎	20	25	しもつま	15	16
ひたちなか	90	91	石岡	100	90	利根町		11	大子		6
那珂	30	24	百里	15	6	藤代	60	63	事務局	30	149
水戸西	80	67	土浦	70	91	取手	60	71	稲敷		5
花だいこん	30	15	阿見	50	67	下館	50	46		1408	1420



■昨年12月8日の意見広告見た方々からたくさんの電話が入りました。いくつか紹介します。

- 老人ホームに入っている方 「今朝の朝日新聞見た。それでこの電話をかけている。今日の新聞に載ったのだから、締切は過ぎているのだろう。これから振り込むよ。」
- 若い男性の方 「朝日新聞の意見広告を見た。もう遅いと思うが、これからでも大丈夫か。」
- 北茨城の会員の方 「今日の新聞をみた。ぴったりだね。よかった。地域で発行している新聞に載せたい。」
- 五霞町から年配の女性の方 「すごくいい内容だった。すっきりしました。この広告を有料でもいいからほしい。よろしくお願いします」
- 行方市年配の女性の方 「すばらしい内容だ。協力したい」「取りに行きます」
- 東海村の女性の方 「分かり易くてよい。訴えていることがよくわかる。お金がかかったでしょう。」

～寄稿～

「沖縄支援・連帯ツアー」に参加して
茨城県アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会
理事長 林 俊 光

7日～10日まで、羽田前泊と含めると4泊5日、日本AALAが主催した「沖縄支援・連帯ツアー」に参加しました。SNSを通して毎日、何十本と送られてくる沖縄のたたかいを見ていると居ても立ってもいられませんでした。

1日目は、オスプレイが配備された普天間基地、極東最大の軍事基地・嘉手納基地、そして辺野古漁港視察。

2日目は、チャーター船で瀬高の新基地建設予定地を視察、高江のヘリパッド基地反対現場を激励。また辺野古のテント村を激励、ゲート正門前のピケにも参加しました。

3日目は、終日、宜野湾市長選挙の応援です。17日告示、24日投票ですが、ハンドマイク隊、電話作戦と「こんこん作戦」、これは1軒1軒、軒並み歩いて支援を訴え「シムラさんを応援します。」という名簿に署名をして頂くのです。これは私も初めての経験です。そして「期日前投票」が勝負だとしています。今月24日までの間に沖縄へ支援に行ける方、諸団体の応援をお願いします。また、現地ではこのたたかいに大変なお金も掛かっています。皆さんの「支援カンパ」を訴えます。